

第12回 統計品質改善会議 議事概要

- 日 時：令和6年11月22日（金）13:30～14:10
- 場 所：中央合同庁舎2号館 14階 情報政策本部会議室AB
- 議事概要：以下のとおり

【資料の説明】

「建設関連統計の品質改善に向けた検討」の議事に関する資料を事務局が説明

【構成員からの主なご発言】

- 建設工事受注統計調査の誤報告対策の検討を本年7月から行っており、以下の2点が重要と思われる。
 - ・ 報告者による回答段階と国交省による集計段階において、誤報告の疑いのある数値を効率的に検知し、それらの疑義照会を統一的に行うなど、審査内容を充実すること
 - ・ 標本設計により設定された層によっては高い乗率となり、推定される受注額も大きく変動する可能性があるため、何らかの合理的な方法で推計値を安定化すること
- 以上の2点に加え、本質的な問題としては、受注統計調査等はその設計時からかなりの時間が経過し、時代に即した見直しが必要であると考られる。
- 統計の精度向上のためには、誤報告を低減させる取組が不可欠である。そのためには、回答者の状況に対応して、調査票や説明書きの見直しも継続することが望まれる。
- 国交省独自のオンラインシステムを導入することを計画しているとのことだが、それにより人手にあまり依存せず、入力ミスも減らすことができる。さらに、これらに加えて、集計段階でも論理的にエラーを特定し、統一的に審査をすることが重要である。これらの取組が誤報告対策の基本になる。
- 現行の標本設計は、その設計時点では統計委員会でも十分議論されたと思うが、それからかなり時間が経って社会経済の状況が変化し、建設企業の実態も大きく変化してきていると考えられるので、業種の区分、資本金の区分等のあり方を含め、今後時間をかけて今の時代に即した見直しを検討していくことが重要である。
- 今回の誤回答を踏まえて、エラーチェックの見直しに踏み込み、国交省が独自のオンライン回答システムを構築したことは大きな一歩だと感じている。
- 疑義照会の記録をしっかりと残していくことは非常に良いと思うが、年単位など定期的にある程度まとまった段階でその内容を分析し、次に活かしていくサイクルを作ることが重要である。

- 測定誤差に対応する方法としては、なるべく測定誤差が起きないようにすることが基本である。今回の事案を踏まえ、集計結果に間違いが反映され難くなるように標本設計を変えるというよりは、まずは誤報告がなるべく少なくなるような対応が必要である。
- 誤報告を減らし、発見し、推定値を安定化させるという二重三重のセーフティーネットの方法を継続し、常に改善していくサイクルを通じて、より良い内容になっていくと思う。
- 国交省が構築した新しいシステムにおいて、回答者である事業者が対応していくことができるのかを初期段階でしっかりと確認することが重要である。
- 現行の層別の集計方法は今後の課題であると思う。1つの数が全体の結果に影響を与えることはある程度は仕方がないと思うが、今後検討することに賛成である。
- 対応方針の3つは大事な観点だと思う。それらのうち、審査内容の充実化については、どのように審査するのかに関して、疑義照会の結果から誤りの傾向を分析・把握するなど、それをマニュアルに随時追記していくことが必要である。
- 疑義照会の際には、数値が正しいか否かを聞くのではなく、この数値はいくつかと改めて報告していただき、それと手元の調査票の数字と付き合わせるような照会の工夫も必要だと思う。
- 全体としては、誤報告に対応していろいろな取組を着実に進めているとの印象を持った。短期的に実施できるものと長期的に実施できるものがあるので、まずは短期的に実施できるものから進めていただきたい。
- 審査内容の充実化だけではなく、新しいオンライン回答システムを試験導入しているとの説明があった。同システムでアラートの発生を記録できると聞いているので、アラートの記録を活かしながら今後の調査票の改善に活かすことを考えてはどうか。
- 長期的な問題は難しい面もあるが、長期的には標本設計の見直しも避けては通れないと思うので、長期的な視点でも考えていく必要があると思う。
- 回答者による記入の間違いを共有していくことが重要である。機会があれば、調査票においてどこが間違いやすいかを回答した事業者に聞くことも重要だと思う。
- 新しい回答システムにおいてエラーチェックができるようになったのは良いことであるが、今後も疑義照会や事業者へのヒアリングなどを通じ、どのような間違いが多いのかを確認していくことができれば良いと思う。
- 標本設計の見直しは大事だと思っており、その際、関係者の要望からどの程度の表章が必要かを把握しつつ、制度等も考慮して検討する必要がある。

以上